2020 年６月期 第３四半期 決算説明会

■ 第３四半期決算の説明

（表紙）

皆様、ご多忙のところ当社、株式会社ビーネックスグループ 2020 年 6 月期第 3 四半期決算説明会にご参加いただきまして誠にありがとうございます。
既にお配りしておりますお手元の資料に基づいて、当社 2020 年 6 月期第 3 四半期の決算についてご説明をさせていただきたいと思います。

それでは、まず最初の資料、最初に少しお知らせとして書かせていただいております。これは、先週金曜日、15 日にも決算発表の時にあわせて発表させていただいておりますが、今回の新型コロナウイルスに伴う従業員に向けての特別手当の支給というものを決めさせていただきまして、公表させていただきました。これは連結の業績にも影響することでございますので、冒頭まずお知らせをさせていただきたいと思います。こちらは記載の通りでございますが、昨今の情勢の中で様々な費用がかかっている状況でございます。当社の従業員の生活支援といいますか、そういった部分を何らかの形で当社グループとしても支えていきたいという思いで、こういう手当を支給させていただくこととなりました。改めて本資料の中でも記載させていただきます。

それでは、資料に基づいて決算についてご説明させていただきます。

（1 ページ）**グループ理念、中期経営計画**

理念等々でございます。改めてお時間あるときにご覧いただければと思います。

（2 ページ）**目次 Ⅰ 連結業績**
まず目次のとおり連結業績につきましてご説明させていただきます。

（3 ページ）**ハイライト**

連結業績のハイライトといたしまして、第 3 四半期業績は前年同期比で増収減益となりました。売上高は昨年比 1.9%増の 629 億円、営業利益におきましてはマイナス

5.6%の 42 億円、当社が重要な指標としております EBITDA に関しましては、前年同期比比較マイナス 2.6%の 51 億円となりました。
当社が注力しております技術系領域においての IT 領域分野の拡張につきましては、昨年 2019 年 11 月にグループ入りいたしましたアクシス・クリエイト等が、第 3 四半期の連結より寄与しております。加えて、従前の事業から IT 領域の拡販をし続けまして、情報通信向けの売上高は大幅に増加しております。こちらは前年同期比 67.6%の増となりました。
次に、通期の業績につきまして修正をさせていただくことになりました。当期で業績の底打ちを展望しております。
昨今の新型コロナウイルス等の影響を踏まえて、英国事業ののれん減損を含めた修正をいたします。売上高では 822 億円、当初予定は 870 億円でございました。営業利益におきましては 45 億円、期初 65 億円の予想をしておりました。EBITDA も 56 億円、期初予想 75 億円でございました。
一方で、配当予想は予定通り、期末配当 25 円といたし、年間の配当は 40 円とさせていただきたいと考えております。

（4 ページ）**連結業績**

続きまして連結業績につきまして、それぞれの段階利益についてご説明をさせていただきます。
先程申し上げたように技術系売上高は 626 億円、EBITDA は 51.5 億円でございました。技術系領域は引き続き業績を牽引しましたが、残念ながら他セグメントは前年の実績を下回る結果となりました。3 クォーターよりアクシス・クリエイトが連結に寄与し、こちらが売上高で 5.1 億円、営業利益では 0.6 億円でございます。
また、新型コロナウイルスの影響は 2 月の後半より出始めましたが、決算に関しましては限定的な決算の影響だと考えております。数字につきましてはご覧いただいている通りでございます。

（5 ページ）**特別損失について(1)**

続きまして、特別損失について説明をさせていただきます。
まず、第 3 四半期において特別損失で 14 億 6500 万円を計上しております。うち、減損損失 11 億 6200 万円と、投資有価証券評価損 3 億 100 万円の内容は以下の通りでございます。

イギリスでの事業でございます。MTrec 社、Gap 社におきまして、減損損失 11 億 6200 万円を計上しております。英国の事業は従前より国内の技術者派遣を拡大しながら、さらに将来に向けた投資としてとらえて参りました。
当社といたしまして 2016 年 MTrec、2017 年 Gap、そして 2018 年 Quattro 社の買収を行ってまいりました。今回、減損損失の計上につきましては、いわゆるブレグジットの進捗状況、皆さんもご存知のように、昨年以降非常に混迷をしてようやく今年の頭にブレグジット方針に決まりました。まだ現状でも最終的にこの年末に向けた移行期間の扱い等について、EU とイギリスとの交渉が継続しているところでございまして、非常に不透明な部分がございます。さらには今回の新型コロナウイルスに伴うロックダウンによって、実質 3 ヶ月程度の経済が止まるという非常に大きな影響を UK でも受けております。そこで、今回英国事業の先行きにつきまして、保守的に将来の収益性の見通しを検討してまいりました。なお今回の第 3 四半期の決算においては、減損額の確定にはいたっておりません。こちらにつきましては最終的に想定される影響額の最大幅で特別損失を計上しております。今後当該内容が確定次第、別途お知らせさせていただくことにしたいと考えております。

(6 ページ)**特別損失について(2)**

続きましてこちらの方はもう 1 つの特別損失についてでございますが、第 3 四半期におけるのれんの内容と、もう 1 つ細かい数字でございますけれども表記させていただいております。今回、本件に関しての 2 社、MTrec と Gap の損失を計上した上で、残りののれん等々についてこちらに記載させていただいているところでございます。
MTrec 社、Gap 社の状況につきましてはこちらの表の通りでございます。それぞれの事業におきまして、現在現地の方で懸命の事業推進をしているところでございます。それぞれの事業におきましては単年度での赤字転落は想定しておりません。大幅な売上減等はございますが、コストコントロール等々をしっかりと行うことによって、現状も事業を順調に継続的に行っているところでございます。

（7 ページ）**特別損失について(3)**

続きましてもう 1 つの特別損失でございますが、投資有価証券の株式評価損 3 億円についてご説明させていただきます。
こちらは当社の投資有価証券、これまでベンチャー企業や先端テクノロジー企業への投資、支援を目的として行ってまいりました。現時点では、こちらに書かせていただ

いている通り、直接的な事業シナジー等々がなくても、エンジニアの活躍するフィールドを拡張、創出できるということを前提に、いくつかの投資をしているところでございます。今回投資目的で保有しております、中国におけますこちら、点米網酪科技股份有限公司、中国において HR テック事業を先鋭的に行っている会社でございますけれども、こちらの株式の価値評価を行った結果、取得価格との差が大きくなったことによって、評価損 3 億円を計上させていただくこととなりました。このテンメイ社も、引き続き事業を継続的に行っているところでございます。中国経済の回復に伴って、今期以降また新たな展開ができるものと期待しているところでございます。

（8 ページ）**目次　Ⅱ セグメント業績**

続きましてセグメント毎の業績についてご説明させていただきます。

（9 ページ）セグメント別売上高

セグメント別の売上高でございます。特に当社が注力しております技術系のところですが、技術系におきましては売上高 329 億円、同期比 9.9%の増となりました。海外におきましてはポンドベースでもプラスの 0.4%の 165 ミリオンポンドという形でございます。
ポイントといたしまして、持株会社への移行となりましたので、一部内部取引を除いて、19 年、20 年とも外部顧客を売上高と表記させていただいております。
ポイントといたしまして、技術系は特に先程冒頭に申し上げたような IT 分野の拡張により、2 桁の成長、IT 分野の需要は今後も強い見通しだと考えております。
海外では、ポンドの対円ベースの為替変動は大きくなりましたけれども、現地通貨では増収を堅持しております。

（10 ページ）**セグメント別 EBITDA**

続きまして、セグメント別の EBITDA でございます。こちらも表記の通りでございまして、技術系は第 2 四半期までの稼働率低下と残業時間の減少等々影響がございました。前年同期比では減益ではございましたけれども、第 3 四半期は社員の稼働数の増加等ございまして、前年同期比では増収に転じてプラス 2%となり、43.4 億円となりました。結果、EBITDA の合計は 51.5 億円と、残念ながら前年同期比 2.6 億円のマイナスでございます。

製造領域および海外領域でございます。海外につきましては先程申し上げたように、現地通貨ベースではプラスではございますけれども、為替による損益という形になっております。

（11 ページ）**主セグメント技術系領域 社員数と稼働状況**

残りは細かいところでございますけれども、当社が非常に重要な指標としております社員数と稼働数の状況についてご説明させていただいております。
需要が高い IT 分野の技術者の配属、社員数は引き続き伸長しておりまして、前期末から 675 名増加いたしました。稼働率も第 2 四半期まで少し低調ではございましたけれども、第 3 四半期におきましては 1.5 ポイント増加しております。
稼働日数の方は若干増えましたので、結果的に一人あたりの稼働売上というのが増えた計算になります。

（12 ページ）**主セグメント技術系領域 残業時間と単価**

今申し上げたように稼働率は上がりましたけれども、一方で残業時間、いわゆる時間外の部分が昨年から大幅に減っているところでございまして、0.87 時間／日で、1 人あたりの割合が非常に減っています。単価につきましては新卒者の稼働、いわゆる未経験者の稼働が非常に増えたということで、若干低減しておりますけれども、こちらは例年の山でございまして、またこの第 4 四半期以降プラスに転じて行くと考えております。

（13 ページ）目**次　Ⅲ 業績・配当予想**

続きまして、今後の業績及び配当についての予想についてご説明いたします。

（14 ページ）**業績予想の修正について(1)**

冒頭申し上げたように、業績につきましては修正をさせていただきました。
売上高に関しましては当初予定 870 億から 822 億、営業利益 65 億から 45 億、EBITDA に関しましては 75 億から 56 億、当期純利益は 38.4 億から 12 億と、段階的に修正予想とさせていただくことになりました。現在進行しております新型コロナウイルスの影響が非常に大きなものとなっております。この 4 月に入った新卒者の配属が大幅に

減速しております。お客様である顧客企業へ4月頭、5月頭から配属予定をしていましたが、顧客企業先そのものの休業や受け入れ体制の問題等に伴って、受け入れの順延が非常に大きくなっております。また、稼働している派遣社員も、時短勤務であるとか自宅待機、テレワーク等が行われておりまして、稼働率自体が低下し、短期的には利益の低減が進んでおります。冒頭申し上げたように、そういった中でも当社といたしましては、雇用維持、生活支援の観点から、国内の全社員、約1万名でございますけれども、1万名超に対しまして新型コロナウイルス対応、支援の特別手当、一律に3万円の支給をすることを決定いたしました。このため、当第4四半期においては、労務費が通常より増加し利益の減少となりますが、これは当社の理念でもございます、「従業員を大切にする」ということ、「雇用を維持する」ということ、こういったことは非常に必要な、重要な手立てだと判断しているところでございます。
現時点で想定される影響や、まだ不透明な部分はございますが、一旦、想定される部分につきましてはすべて折り込み、来期以降は業績の積み上げに応じて利益回復を狙っていきたいと考えております。

（15ページ）**業績予想の修正（セグメント）**

それぞれのセグメントにつきましての業績予想の修正を記載させていただきました。新型コロナウイルスの影響を可能な限り見積もっています。先程申し上げたように、顧客企業の状況等を見ながら、配属タイミングがずれることや個々の稼働時間が減る、そういったものの影響を詳細に積み上げて参りました。こちらの記載にありますように技術系、製造、海外、それぞれの第4四半期の見通しになっております。営業利益ベースでは製造部門で若干の赤字になると見通しております。それ以外では海外でも黒字は確保できると見ておりますが、全体の合計では、こちらに記載の通り、売上高は822億円、営業利益45億、EBITDA56億の水準になるかと考えております。

（16ページ）**業績予想の修正について(3) 特別手当**

先程申し上げた特別手当、1万500名相当、約3万円でございますので3億強の金額につきましては業績修正の中に組み込まさせていただいております。こちらは6月に支給を予定しております。対象会社は国内の事業会社、及び特例子会社でございます。ビーネックスウィズ含めて全ての国内会社の社員につきまして、正社員、契約社員含めて対象とし、微小でございますけれども支給したいと考えております。

（17 ページ）**業績予想の修正について(4)**

業績予想につきましてのサマリーで書かせていただいておりますが、まずいくつかの視点で今回の修正につきましての KPI 等々書かせていただいております。
技術系につきましては、この 4 月に新卒採用 590 名が入っております。期末である 6 月末では、7,400 名を超える社員の状況になると考えております。先程申し上げたように顧客企業の稼働後ろ倒し等々もございますので、前期末よりは 1 ポイント程度下がった稼働率で期末を迎えるのではないかと考えております。
稼働日数等につきましては 1.5 日程度のマイナスを想定しております。
単価につきましてはこの 4 月に同一賃金同一労働等々もございましたけれども、そういった部分の改定も含めて、若干ではございますけれども既存取引のチャージアップ等の傾向も出ております。特別手当等の支給を一時費用に組み込んでおります。
製造系に関しましては、先程も申しましたがこの事業の特性上リモートワークがございませんので、稼働そのもので売上高、利益が影響するということでございます。一方では休業補償等で若干のコスト吸収をしております。
また、社員数に関しましては急激に契約の解約等が進んでいるわけではございませんので、期末社員は若干減りますが 2,200 名を想定しております。
派遣単価等も横ばいを想定しております。こちらの方も特別手当の一部、約 7,000 万円を、一時費用で見込んでおります。
海外は、もう既に終わっておりますこの 3 月末で通期の連結の取り込みするため、数値的には折り込み済みでございます。
昨年末のクリスマス明け以降、非常に季節変動が大きな状況でございました。ブレグジットの可決等もございまして、稼働が大幅に下がったという影響がございました。
また 3 月の中盤以降、前半ぐらいから、新型コロナウイルスに伴うロックダウン等もございまして、この第 3 四半期、海外領域の第 4 四半期においても影響は受けております。

（18 ページ）**配当予想**

配当でございますが、そういった状況の中ではございますけれども、当社の従前掲げております、お客様や従業員に報いるということと合わせて、株主の皆様にも相応の還元を行うという考え方の中で、期末の配当につきましては 25 円、年間配当 40 円の予定を維持したいと考えております。
コロナの影響、非常に大きい部分ではございますけれども、着実に当社といたしまし

ては成長している過程でございます。そういった過程の中では、今後もそういった成長ご支援をいただくということも含めて、株主の皆様への還元を連続性を持って維持していきたいと考えております。

（19 ページ）**目次　Ⅳ 来期と中期経営計画について**

最後になりますが、来期計画ならびに中期経営計画について触れさせていただきたいと考えます。

（20 ページ）**来期の事業や業績に関する考え方(1)**

少し細かい数字等記載させていただいておりますけれども、来期計画、これからのことでございますが、考え方につきまして 1 つ 2 つ記載させていただいております。
まず、来期計画につきましての利益の部分で大きく影響するところでございますけれども、今期行います施策の 1 つとして行う特別手当約 3.5 億円、そしてこの 11 月に行いました M&A による一時費用が 0.8 億円、そしてのれんの償却、こちらは減損等をすすめることで 1.4 億円程度減るということで、この部分だけで約 6 億円程度、来季以降剥落する一時的な費用や償却費用がございます。
また、注力しております IT ソフトウェア領域、IoT に関わるエンジニアニーズは、新型コロナウイルス等における影響はそれほどなくて、継続的な社会のニーズがございます。そういった意味で、テレワーク等進んで行く、ニューノーマルと言われているような環境下において、一層高まるのではないかと、そういった意味で当社が進めておりました IT 領域への拡大、そういったものが、より効果が出ると考えております。来期以降この部分が、事業の回復の牽引力になってくれるのだろうと考えているところでございます。

（21 ページ）**来期の事業や業績に関する考え方(2)**

来期の事業計画や業績に関する考え方も 1 つ 2 つ記載させていただいております。
こちらも細かい図表ではございますけれども、当社の売上高、利益に大きく寄与しますのは技術の社員数でございますが、当期末では前期末からプラス 18%と大幅に増員を見込んでおります。そういったことも踏まえまして、今後の機会を適切に捉え、色々な拡大を進めていけると考えております。
また既にこのコロナ影響の前から、よりそのことを鮮明にして進めておりますが、採

用工程であるとか営業工程におけるオンライン化、営業のテレワーク等を通じた効率化を進めて参りました。ここに細かくエンジニア向けのサイト「トラステーション」などのことを書かせていただいておりますけれども、こういったものがこの直近 2～3 ヶ月の間非常に効果を示しております。顧客先企業にも、仕事の打ち合わせ等々もオンライン上で完結するという事も非常に多くなってまいりました。こういったことが来期に向けた事業を後押しするものだと考えております。

（22 ページ）**中期経営計画について**

最後になりますが、中期経営計画についてでございます。
中期経営計画といたしまして、昨年新規で 3 カ年計画を策定し、推進しているところでございますが、今回の想定を超える影響といいますか、新型コロナウイルスのような事業環境の大きな変化は想定をしておりませんでした。そういった意味で、このタイミングで計画につきましては改めて変更を行う可能性がある、ことをお伝えさせていただきたいと考えております。

残りにつきましては補足資料でございます。

以上、決算の発表についてでございますが、最後のページにお知らせの記載をさせていただいています。
この決算の発表とは少し違いますけれども、当社に新たな戦力が加わりましたことを皆様に披露させていただきたいと思います。
当社の顧問として、先週 5 月 15 日付で、佐藤博氏が当社の顧問に就任いたしました。
皆さんもご存知の方が非常に多いかと思いますけれども、佐藤氏は、昨年まで同業でございますテクノプロ・ホールディングスの取締役 CFO を勤められており、非常に多くの経験を有されております。今回、当社の顧問就任を通じて、ビーネックス、及びビーネックスグループの企業価値の向上に関わっていただき、より強固なインターフェイスの役割を担っていただくことになると思います。
皆様方におかれましては面識も多々あられると思います。この場をお借りして皆様にお伝えさせていただきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

それでは私の方から 2020 年 6 月期、第 3 四半期の決算説明について終わらせていただきます。
ご清聴ありがとうございました。（終）